

ければならぬ。破壊した後には建設に移ることと従来の建設の利用す可き處は利用して然る後に新なる建設に着手することとは、何れが得策であるかは識者を待つて初めて知り得る事ではない。翻つて伊國のフ黨のなす業蹟と隣近の露國の共產黨がなす現状とを英米佛獨伊等の著述によつて不充分ながら窺ひ得た丈けで判斷するならば一旦破壊した後には建設に移つた露國と、破壊せずして建設に進んだ伊國とは何れが健全なる歩み方をしてゐるかは自ら明である。一向に模倣をもつて得意とする極東國人や宣傳の提灯持たることをもつて得意とする所謂明腦の人々の一顧を要する點は磁力の兩極の何れかから發足した露のレニンの遺業と伊のムソリニの業蹟とが今日如何に歩み寄つてゐるかの點である。破壊せずして而かも建設的に進み、破壊主義者がなし來つた幾多の行蹟のうちからその美點のみを採用し利用してゐるムソリニの遣り方が得策であるか、將た最初から破壊主義をとつた者が破壊は容易くなし得たものの建設の必要に迫

まられ建設の道程に入つては只新らしき外被を着せるに止つて實は先進者のなし來つた處に追隨するに過ぎない露國の現状を賞揚す可きであるか、幾多の政治的社會的及び經濟的實蹟に於て今日伊露兩國が如何に相接近してゐるかを靜に觀察することによつて前述の兩者の得失を考察することは興味深き啓示を得るであらうと思はれる。

想はぬ比較論をなしたが、伊國に入るに及んでフ黨の主義實蹟の何たることを知るに多大の興味を覺え機會ある毎に糾明を心得たが非才未だ全般を知るに至らないのを遺憾とするのである。

## 新 著 紹 介

### ○軌近鑛物學

青山信雄 木下龜城共著 東京神田淡路町文啓社書房發行 菊版五七八頁+索引 九月 定價四圓八〇錢

最近鑛物學は物理的研究の進歩されたので著しく内容を異にして來た。然るに我國には未だ新しい研究を取り入れた手

頃の礦物學書を缺いて居た。此の新著は高等専門學校程度  
の教科書或は參考書とし、かねて文檢受驗者の參考になる様に  
編纂されたものであるが、其の記述の親切を極めたと新し  
い研究の結果をうまく壓縮して居るから獨り上記の人達に適  
する許りでなく古い礦物學を修得した者に對して實に好き復  
習習得書である。總て五編より成り内第一編結晶學、第二編  
物理的礦物學の大部は青山氏の擔當に係り、第三編化學的礦  
物學、第四編礦物の成生及び現出狀態、第五編礦物各論並に  
第二編中の假像、礦物の熱學的性質及び礦物の電磁性は木下  
氏の執筆する所である。通覽する所編纂に多大の注意を拂つ  
たことは全卷を通じて現はれ、説明の正確にして懇篤なる校  
正の嚴格、印刷の鮮明、挿圖の豊富、其の善美なことは學ぐ  
るに暇ない次第である。若し夫れ第二編中の結晶内部の構造  
及第三編中の混晶礦物及同質多像礦物の三章並に第四編を理  
解して後第五編に於て礦物各論を修得せんか新しき礦物學の  
内容は之を總覽することが出来、如何に從來の礦物學の表面  
的學問に過ぎなかつたのを悟ることが出来る。然かも本書は  
たゞに新しいニダリやモスネルの教科書等の翻案でなくして  
日本に於ける各礦物の産狀等の記載を簡潔に記述した點に於  
てどこまでも日本の礦物學書たるを忘れなかつたことを示し  
て居る。地學を愛するものは地學の基礎知識をなす礦物學を  
知らねばならぬことは、最近公にされた或る地學書の著書が  
全然礦物の知識なしに岩石などを記述して初學者を過まるの

罪を犯して居るのに鑑みても必ず修むべき學科であることを痛  
感する。此の時に當り本書の様な絶大の信頼を置くことの出  
来る邦書を獲たことは大學に於ける同級の兩著者を祝福すべ  
きと共に我地學界の大慶である。(N)

### ○世界地理發見史

エドワード、ヘリツド著  
細井一六譯  
古今書院發行 定價參圓貳拾錢

本書は Herodotus の十七世紀及十八世紀に於ける地理發見  
の歴史を譯されたものであつて、北極地方、東印度、濠洲、  
北部及中央アジア、アフリカ、南洋、太平洋等の探見及發見  
の歴史が簡明にかゝれてある、この中で我々に關係の多い  
は北太平洋に於ける露西亞人の活躍及フランスのラベルズ  
が日本の北邊に於ける探檢とその結果等であるが、しかしさ  
うした局部地理の發見よりも、世界がいに白人によつて發  
見され植民されたかといふ近世の一大事實の由來を本書によ  
つて明にすることが出来るといふことは、一般の讀書界に寄  
與する所が甚だ多いと思はれる。四六版五一九頁、譯文も流  
暢で印刷も鮮明である。(藤田)

### ○日本の自然と人文

西田卯八著  
古今書院發行  
定價二圓八十錢

本書は第一編日本の自然の史的關係、第二編地的關係、第  
三編文化的關係、第四編生産的關係、第五編交通の五部から成  
立し四六版五百十六頁の手頃な人文の概説である、第一編の  
論說中には首肯しがたい點が多い。例令ば南方派民族なるも

のが地球をへて日本に來たといふが如きはいかゞであらうか  
委奴國を怡土であるといふのはこれはどうか、三宅博士の倭  
の奴國と讀むのさへ誤つてゐると考へられる今日の史學者の  
議論を無視してゐるのはいかゞであるか、第二編以下は何分  
にも概説にすぎてゐる蓋し經濟地理の簡明な叙述であるとな  
れば、まづかうした體裁にならざるを得ないであらう。(下)

## 新刊即報

◎世界地貌學要論 楠田鎮雄著 古今書院 十月

三圓八〇錢

◎地質學雜誌 第三六卷第四三二號 九月

第三紀火山作用と關係ある金銀鑛脈の生成に就いて(加藤武夫)

炭酸石灰の二三の異形體に就きて(英文)(吉村豐文)

最近の阿蘇火山噴出物に就きて(英文)(津屋弘遠)

◎大正九年國勢調査報告 全國の部第二卷職業 內閣統計局  
六月 定價一圓

◎地學雜誌 第四一年第四八八號 十月

昭和四年六月に於ける胸ヶ岳火山の噴火に就て(赤木健)

西尾式(Cure Porter)と東京市地質調査結果の第一報(二)

(西尾銚次郎)

桂川—相模川段丘と地塊運動(東木龍七)

蘭領ホルネオ北東海岸油田の含油第三紀層(植村癸巳男)

◎Notes on the Geological Atlas of Eastern Asia.

The Tokyo Geographical Society. 1923.

◎On the Revision of the Altitude of the initial Mark

for Geodetic Levelling of Japan after the Great

Kwanton Earthquake. By H. Omura Land Survey

Department. Jan. 1923

◎An Outline of the Geology and Mineral Resources

of Taiwan. By Ichirō Hayasaka and Hankichi

Takahashi. Apr. 1923.

△十萬分一水戸及土浦近傍圖 陸地測量部 九月

定價三〇錢

△昭和四年特別大演習地圖(水戸土浦地方)五萬分一(三枚一

組)陸地測量部 十月 定價六四錢

◎日本鑛業會誌 第四五卷第五三四號 十月

山陰式金銀鑛床及同式鑛床地帯に就て(久原幹雄)

滿俺鑛に關する調査(山口六平)

◎燃料協會誌 第八年第八五號 十月

朝鮮の炭田に就て(内田龍五郎)

燃料工業に於ける酸性白土の應用(小林久平)

◎支那鑛業時報 第七二號 十月

間島老頭兒溝炭礦調査報文(澤介治、今井澄)

撫順産石油頁岩中ノ「ピチエーメン」ニ就テ(上床國夫)

◎朝鮮鑛業會誌 第一二卷第三號 九月